

三、東京の元旦
昭和十年一月一日
明ければ元旦、かげなく東京

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
從順ナレ
ルベシ

乞食新聞論

大内民惠

これは十二月號に掲載する豫定であつたが、此種新聞屋連中の生活を、おびやかす様になつては、氣の毒だと思つたので、差控へて居つたのであつた。

乞食新聞とは、例によつて記者の創稱である。以下少しく説明を加へて、論評を試みやうと思ふ。

何等の主義主張もなく、まとまつた文章も書けない手合の者が、たゞ食はんが爲に、いくらかの保証金を納めて、合法の手續きをとり、其多くは月刊で、堂々と何々新聞とは稱して居るが、其實際は、謹賀新年、暑中御伺、當選御禮等の廣告料、お目出度い人達の提燈持料、人の弱味につけ込んでの、體のよい恐喝料等々が、其重なる収入で、強い者には兇家の犬の様、弱い者には威丈高に記者風を吹かすといふ態度に出て、時たま掲載する社説様のもの

のは、大方人に頼んで書いてもらひ、ただわづかつまらぬ記事をかきつけ、あとは全面廣告をもつて埋め、發行紙數も、精々三百か五百千を出すものは稀有であり平素はあらゆる方面を克明にもらひ廻り、年末とか、暑中とかを、書入時と稱して、血眼になつて、五十錢一圓と、ねだりまはるのである。更に選舉でもあらうものならば、其種類の如何を問はず、此時を勇躍して立ちあがり、休刊して居つたものゝ再刊するは勿論雨後の筈の如く、新刊が繰出する。それに今時立候補などする多くは、抱負もななく、實力もない野心家が多く、一票でも多くほしさに溺るゝものは藁をもつかむのたぐひ、宣傳料をばつむといふ有様である。初めて村會議員に當選した者が、

十幾人かの例の記者様に襲はれて、村會議員とは、こんなにならぬものかといふ、我と我身を感心したといふ、喜劇をさへ生むのである。

大要以上の如き新聞を、乞食新聞と稱し、其記者乃至社長なるものを、乞食記者乃至乞食社長といふのである。勿論殆ど全部が、兩者を兼ねて居るのが普通である。其數は警察署管内でさへ、約二十を算するといふ事であるから、全國では相當莫大の數であると思ふ。之は單に國內のみならず、海外に於てさへも、一寸同胞のまとまつて居留する處では、必ずかうした徒輩が蠢動して居るのには、あきれざるを得ないのである。

而して各公私團體、銀行會社、有力家、商店等々、すべて之れにはなやまされて居るのである。何とか出来ぬものかといふは、何れもの嘆息である。近頃それら組合をつくつて、一件いくらかとして之に應ずるものも必竟、其對策と見るべきものである。又警察では、眞に困つたものではあるが、今の制度では何共致し方がない云つて居る。記者はいつか或店頭で「新聞廣告と保險の勤誘」とは偏に御断り申上候」といふ、はり紙を見た事があるが、實際世間

から、毛虫の様に嫌はれて居るのである。謹賀新年にせよ暑中御伺にせよ、將た商店の廣告にせよ、もと發行紙數も少ないことあり、且つ見るもの、注目を引くこともないのであるから、何れも別に印刷した端書なり、ビラなり、を出さず事になつて居るのは云ふ迄もない事である。且此等の紙上で、賞められれば幾らか出したと判じ、くささなと斷するものが、世間一般の認識となつて居る。されば心あるものは、そうした紙上に、其名を載せられる事を避くる傾向になつて居るのである。記者なども正に其一人である。忌憚なく云へば、乞食新聞なるものは、有害無益の存在である。斷言してもよいと思ふ。そこで問題は、之が對策である。

雪の日やあれも人の子捨拾ひいふ迄もなく所謂乞食記者と雖も、人の子であり、陛下の赤子であり、我等の同胞である。詮方なきに食はんが爲の商賣なりと思へば同情こそすれ、惡む事は出来ないものである。而してその事は、我々の社會の其處に、問隙があり、缺陷があるからである。要するに我々社會人の責任となつて來るのである。故に先づ我々

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

本館定価 一冊五錢 年報費 一元二角
發行所 内郷村報社
印刷所 平活版所

は、相戒めて彼等に、提燈を持つてもらつて、得意になる様な、甘い考を去ると共に、恐喝される様な、行動を慎むは勿論、くだらぬ年賀廣告や、暑中御伺などを全廢し、あはれむべき微力なる彼等に、聲援してもらつて迄、選舉に當選しやうなど、と云ふ、さもしい心を起さない事である。かくてもし餘力あらば、彼等を善導し誘掖して、正業に就かしむべく骨を折る事である。又彼等にしても、大に反省轉向を心掛け、世間から毛虫の様に嫌はるゝ様な乞食生活をさらりと止めて無害有益と迄は行かなくとも、せめては無害無益でもよいから、人様に嫌はれない、迷惑を掛けぬ程度の生活に入るべく精進すべきであると思ふ。

天は自ら助くる者を助く誠心誠意、骨身を惜まず奮闘をするといふ決心さへ起さば、其處におのづから生活の道が開き、生き甲斐のある運命の扉は、開かれる事と信ぜらるゝのである。また政府當局に於ても、之等の取締方法を考慮すると共に、法の改善を企圖すべきものと思はれる。

本紙は特に數百枚を増刷して、縣警察部に贈呈し、縣下の各新聞社に、頒布方をお願する考である。

昭和九年度豫算決定

一月二十八日、村會開議... 左記諸件を附議決定した。一、村基本財産預入先決定の件。二、歳計現金預入先議決の件。三、一時借入金議決の件。四、昭和十年度内郷村歳入歳出豫算議決の件。五、村税賦課率決定の件。六、款内流用専決處分議決の件。七、山林特賣議決の件。八、高等科授業料増額の件。九、昭和八年度内郷村歳入歳出決算認定の件。以上は左の通りである。

御下賜品 傳達式

二月二十日午前十時より村役場に於て、皇太后陛下より、高齢者への御下賜品傳達式を舉行した。本村に於て其光榮に浴したるは左の二名であつた。

齋藤 宗 像 よし 九十二歳 齋藤 藤 のぶ 九十三歳

大越中佐 慰靈祭

三月七日は、本村の生んだ軍神大越中佐の三十周年に相當するので、同日午前十時から、白水願成寺墓前に於て、在軍、青訓、小學校等各団体聯合の下に、慰靈祭を執行して、其英靈を弔ふた。

内郷消防組と 防火劑セロン

内郷村消防組では、三月三日村役場に幹部會を開き、最近平白銀町櫻井清氏が、關東北、北海道を一手販賣を開始したる、專賣特許防火劑セロンを實驗の結果、効果偉大なるを認め、全村各戸に普及宣傳する事を決議した。而して同劑は液體であつて、之を木、紙、織物等に用ふれば、すべて之等を不燃性化する性能を有するものである。

高坂校の 兒童學藝會 高坂尋常高等學校では、三月三日午前九時より、講堂に於て兒童學藝會を開催したるが、先生方の苦心と、兒童等の熱心と相俟つて、満場立錫の余地なき迄に押かけた、來賓や父兄をして感激せしめたる由。

出征軍人 座談會と慰安會 在軍警炭分會では、日露戰役三十周年及分會創立一周年を紀念する爲、本日午後一時より、淺野翁頌徳紀念館に於て、出征軍人回顧座談會を兼ね慰安會を開催し、嚴肅に舉式し、閉會後映畫及琵琶の餘興があつた。

紀元節祝賀式典 皇紀二千五百九十五年二月十一日の紀元節祝賀式典は、同日午前十時より淺野翁頌徳紀念館に於て盛大に舉行した。此日の參會者は在郷軍人會員、男女青年會員、親和會世話役、温友會員等五百餘名出席した。因に式典後海軍中將八角三郎閣下の有益なる講演があつた。尙參會者全部に神酒及菓子を贈呈した。(タカノ生)

井上閣下講演會 陸軍中將井上一次閣下の非常時局講演會は、二月十七日午後一時より淺野翁頌徳紀念館に於て開催した。此の日菅原鑛業所長、上原分會長は閣下を綴驛に迎へ、御紹介誘導等一切所長自身が輪流せられた。閣下は老驅猶鑿として非常時局と國民協力一致の必要を強調せられ、聽衆に多大の感動を與へた。

出征軍人 座談會と慰安會 在軍警炭分會では、日露戰役三十周年及分會創立一周年を紀念する爲、本日午後一時より、淺野翁頌徳紀念館に於て、出征軍人回顧座談會を兼ね慰安會を開催し、嚴肅に舉式し、閉會後映畫及琵琶の餘興があつた。

井上閣下講演會 陸軍中將井上一次閣下の非常時局講演會は、二月十七日午後一時より淺野翁頌徳紀念館に於て開催した。此の日菅原鑛業所長、上原分會長は閣下を綴驛に迎へ、御紹介誘導等一切所長自身が輪流せられた。閣下は老驅猶鑿として非常時局と國民協力一致の必要を強調せられ、聽衆に多大の感動を與へた。

本紙贊助金寄贈芳名 金貳圓 大 連草野 美夫 金壹圓 四 倉門馬倉次郎 金壹圓 内 郷島田 兼吉 金壹圓 同 松岡 直久 金壹圓 二 本 佐々木 龍若 金壹圓 好 崎田 直昌 金壹圓 平 櫻井 直清 金壹圓 高 知 山本嘉太郎

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年ノ御體驗下實地ノ御試練ニ基キ眞學眞國ノ大精神ヲ拜味仕リ不感感激ニ打タル申候云々。

發行所 日本評論社 東京三丁目 取次所 内郷村報社

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠著 眼 野之吉 行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際に、歴史を實驗から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に迫らず。され未だ一人の抗議者も現はれず。

陸軍被服縫製開始

志望者五十余人 陸軍被服縫製開始、在東京關東燃料株式會社重役に就任する事となつた。其に相當するを以て、高坂敬餅搗の稽古講話等なしたる由。

合は、逐年順調に發展しつゝあるが、本年度に於ては、米、配合肥料、雜貨等で、純益を擧げ、内八百四拾九年度末棚卸廻轉品価格は四

失野 恒太 大内 民惠 著
服部 宇之吉
教育制度改革概論
(四六版二二頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

防火劑セロン
内鄉村消防組では、三月三日村役場に幹部會を開き

畫及琵琶の餘興があつた。
紀元節祝賀式典
皇紀二千五百九十五年二月

金貳圓 平松 佐々木 龍若
金壹圓 好崎 崎田 直昌
金壹圓 高平 櫻井 清
金壹圓 高平 知山 本嘉太郎
金壹圓 高平 知山 本嘉太郎

陸軍被服縫製開始

志望者五十余人

冷害凶作地救済の目的を以て、本縣社會課が、陸軍省より被服縫製を引き受け、縣下各町村に於て、之に従事しつゝあるが、本村に於ても五百着の配給をうけ、村當局は方面委員と協力の下に、諸般の設備をこゝのへ、渡邊きくえ女史を指導員に囑託し、三月五日より村會議事堂に於て、其講習を開始したるに、五十余人の志望者出席し、何れも熱心の結果、成績頗る良好にして、講習第一日より十五錢の賃金を得て喜ぶ婦人もあり、一日十着を上げる者あり、(一着十八錢)勇み立つ失業者もあらはれ、受講者全部は、今後収入の幾分を寄附して、其諸經費に當て、村費の支出を仰がず、永久之を繼續する事を熱望して居るとの事である。而して渡邊指導員の熱誠と、沼田村長を始め全役場吏員諸氏の、懇切到らざるなき斡旋振りこに對して、一同感激して何れも精勵しつゝある状況である。

岡部重役と濱崎副所長

既に各新聞によつて報導せられたる通り、磐炭濱崎副所長と本社岡部重役とは相前後して、自動車事故により奇禍を蒙り、全山をして愕然たらしめたが、幸ひに其後の経過何れも良好にして、岡部氏は自邸に、濱崎氏は磐炭附屬病院に於て療養中である。記者は最近濱崎氏を見舞ひたるに、未だ腰は立たないが、平常と變らざる元氣で、各方面より受けたる、懇篤なる慰問に對して、衷心より感謝感激し、本紙を通じて、微衷の存る處を、傳達してくれとの事であつた。因みに石橋柳瀬の兩氏は、既に全快して出勤しつゝある。

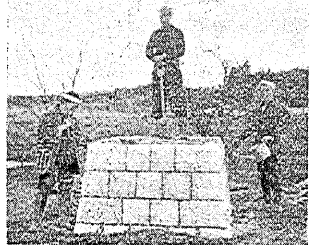
御報告

一、杉田地藏尊建立事業も、普く全國有縁の士の、熱烈なる御協賛によつて、萬事順調に進捗し、豫定通り来る三月二十四日午前十時より、開眼式を舉行する運びになりました。

二、工費金七百圓、雜費金參百圓、計金壹千圓の、豫算を立てたのでしたが、お蔭様で大體其丈の御寄進がある様でありますから、御安心を願ひます。

三、開眼式には、導師として新井石龍禪師を招聘し、式後一大餓鬼を行ひ、御詠歌御和讃の詠唱、講演(當日は杉田小學校、二十二日は郡山市、二十三日は本宮二本松兩町)等を行ふ豫定でありますから、當日は萬障御繰合せの上、多數御參列御參詣下さる様御案内申上げます。

昭和七年三月十日 福島縣安達郡杉田村 拜具



地蔵尊建立後援會

方面委員會

三月四日午後一時より村役場に例會を開き、陸軍被服縫製の件及其他の重要事項を協議した。

殉職者慰靈祭

二月二十四日は、高坂坑

女青の雛祭

磐炭内郷女子青年會は、武藤會長の熱烈なる指導によつて、着々見るべき成績

磐炭少年團

近時磐炭全山を通じて、少年團の創立を見るは、教育上頗る望ましき事にて、一般から喜ばれて居る。宮澤少年團に次いで平太郎少年團、高坂少年團起り、二月十一日



高坂少年團發會式光景

尚講習は二十五日迄之を行ひ、二三日の講習をうくれ

筒井磐雄氏

磐炭の山元に、本社に、多年敏腕を揮ひ、令名あつ

杉田地藏尊建立後援會

昭和七年三月十日 福島縣安達郡杉田村

日本評論社
東京橋本三丁目
内郷村報社

東京見學記 (一) 内郷 一郎

一、緒言
中學を出て三、四年、一通り百姓
修業を終へて、陽春四月
所謂北海道移民として、



佛大の前

昭和九年十二月三十一日
手廻り品をトランクに詰めて、弟
二郎と共に、午後十二時五十分

の真中で、昭和十年の新春を誓ぐ
事となった。雨も上つて旭光燦然
と照らした。カオオの放送する君



は兩側 夫人丹羽は央中 嘯今

昭和十年一月二日
七時起床、九時宿を出て飯田橋
一丁目、大塚方面に向ふ。日本三

昭和十年一月三日
すつかり寝坊をして朝食を戴いた
のが九時半、奥さん御子さん方女

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義
を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し、
併せて其協調を計り、總親和總努力
の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。

本紙發行は村内一家の事業にし
て、其の社説は子孫に對する選
言を發するものなり。
發行所 平活版所